

# 鎌倉市にふさわしい博物館の 基本的なイメージについて

---

# 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想

---

## 「歴史遺産と共生するまちづくり」の施策

歴史や文化を身近に感じ、市民が暮らしやすく誇りに思えるまち

「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」「日本遺産」「鎌倉歴史文化交流館」

## 基本理念：第3次鎌倉市総合計画基本構想

古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を想像するまち

# 使命

## 歴史的遺産を活用した博物館活動

地域資源に関する学術的調査の推進

## 文化財の適切な保存管理機能の充実

適切な収蔵施設の確保

## 歴史的遺産と共生するまちづくりの推進

市域全体を博物館として構築する

# 目指す姿

## 総合博物館の構築

資料の収蔵区分の見直し

## エコミュージアムの構築

現地での保存管理・公開・展示活用

# 基本構想の課題

---

## 近年の「博物館の定義」「役割」の視点

最新の博物館の定義をふまえて、鎌倉の博物館が果たすべき使命を検討する

## 「エコミュージアム」理念と現実の乖離

成功事例は必ずしも多くない。どの地域の取り組みも、その地域にあった形に「アレンジ」

## 市域全体が博物館：鎌倉にふさわしい新たな「博物館像」

エコミュージアムの理念を取り入れつつも、鎌倉にふさわしい博物館のあり方を模索する

# 基本計画にむけて

---

## 博物館法第三条

資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること。

## 博物館法第三条十二項の3

博物館は、第一項各号に掲げる事業の成果を活用するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力し、当該博物館が所在する地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光（有形又は無形の文化的所産その他の文化に関する資源（以下この項において「文化資源」という。）の観覧、文化資源に関する体験活動その他の活動を通じて文化についての理解を深めることを目的とする観光をいう。）その他の活動の推進を図り、もつて地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする。

# 博物館の役割

## 文化のハブ Museums As Cultural Hubs

資料保存の場

文化を醸成し、未来へつたえる場

地域課題の解決

## 教育のハブ Museums As Education Hubs

好奇心、創造性、批判的思考を育む場

多様な学びの場

# 基本構想の課題

---

近年の「博物館の目的」「役割」の視点

博物館が果たすべき使命の更新

「エコミュージアム」理念と現実の乖離

成功事例は必ずしも多くない。どの地域の取り組みも、その地域にあった形に「アレンジ」

市域全体が博物館：鎌倉にふさわしい新たな「博物館像」

エコミュージアムの理念を取り入れつつも、鎌倉に相応しい博物館のあり方を模索する

## 「エコミュージアム」の再検討

### 行政主導型を基本とした住民参画

持続可能な運営組織を目指す

市域全体を学びの場に ▶文化（財）を未来に

子どもたちの学びの場

大人たちの好奇心を育む場

### デジタル化の推進

収蔵資料のデジタル化 &

市域を博物館とみたてるデジタルミュージアム

# 新たな名づけ

---

「エコミュージアム」の古く、現実と乖離したイメージから、  
具体的な鎌倉にふさわしい博物館のイメージへ

▶ **新たな名づけが必要**

# KAMAKURA MUSEUM

(仮称) 鎌倉ミュージアム 構想



鎌倉歴史文化交流館

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

# 国宝館と交流館の役割

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



- ①子供から大人までが、鎌倉の歴史や文化を容易に学べる
- ②鎌倉の通史及び埋蔵文化財を展示する



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

- ①中世を中心とした歴史・美術系博物館
- ②市内等の社寺から重要な文化財を預かり、保管・展示する。

# KAMAKURA MUSEUM

(仮称) 鎌倉ミュージアム 構想



鎌倉歴史文化交流館

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE

KAMAKURA

デジタルミュージアム

埋蔵文化財センター



鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

KAMAKURA

フィールドミュージアム

# KAMAKURA MUSEUM

(仮称) 鎌倉ミュージアム 構想



埋蔵文化財センター

KAMAKURA

鎌倉歴史文化交流館

デジタルミュージアム

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE

## 将来的には人文系の総合博物館へ

KAMAKURA

フィールドミュージアム

鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM



# CASE 1 千葉県市原市



<https://manaimuseum.netlify.app/>

「I'Museum」は、市全体を歴史のミュージアムとして捉え、市民の皆さんと一緒に、貴重な歴史遺産を未来へつないでいくプロジェクトです。

「いちはら」の頭文字であり、「私」という意味でもある「I」と「Museum」をつないだロゴには、「いちはらの」というだけでなく、市民の皆さんひとりひとりが「わたしの」ミュージアムと感じられる、そんな博物館を作っていきたい、という思いを込めています。

市原歴史博物館（愛称：I'MuseumCenter）はI'Museumの中心拠点です。

## さあ歴史の旅に出よう

I'Museumでは

「博物館」「体験館」「フィールドミュージアム」の三つの場所を通して、

縄文時代から現代まで、3万年の歴史を体感することができます。

I'Museumで歴史の旅に出かけましょう！

# 「鎌倉市にふさわしい博物館」の具体像 ①

---

## 核となる鎌倉歴史文化交流館と鎌倉国宝館の 組織と機能の強化

【基本構想】 鎌倉歴史文化交流館を登録博物館にした上で、2館を両輪とする組織整備と運営・連携の強化／博物館の調査研究機能の一部門として埋蔵文化財センター機能を位置付ける／扇ガ谷一丁目用地の活用

# 設備 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

## 設備

- ・ 10周年に向けたリニューアル
- ・ 展示・収蔵設備の整備
- ・ 扇ガ谷一丁目用地の活用  
埋蔵文化財センター（調査・研究・保存）  
+ 収蔵庫

- ・ 100周年に向けたリニューアル（別途重点）  
▶ 施設の大規模修繕
- ・ 収蔵設備の拡充

# 展示 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

---

## 展示の充実

展示環境の改善

展示予算の強化

展示のための調査研究の強化

# 調査研究

## 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

### 調査研究機能の強化と調査研究費の確保

文部科学省所管の科学研究費助成金等を取得できる組織体制への強化

▶ 研究費と事務組織も条件（科学研究費補助金取扱規程）

調査研究費の予算化

紀要及び年報の刊行

# 運営資金

## 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

### 独自の運営資金の確保

寄附の受け入れ体制の強化

ふるさと納税やクラウドファンディングの活用

スポンサー協賛

▶いずれも人員と予算が必要

# 人材 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

---

## 学芸員の人材強化と確保

将来を見越した、安定的な学芸員の確保と館の特性を踏まえた学芸員の配置  
学芸員の研修制度  
事務職の安定的な確保

# 防災 2つの博物館機能の強化

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

## 防災の取り組み

博物館のみならず、市域全体の文化財の防災拠点として

災害対応のノウハウの蓄積（有事の文化財対応者の配置）

▶フィールドミュージアムのネットワークを文化財レスキューへ  
県内外の博物館との連携

災害発生時の想定マニュアルの作成

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

### 発信力の強化

デザイン性のあるHPの充実

デジタルアーカイブの公開

駅ポスター掲出場所の増加

SNSの強化（動画の委託製作、インスタの増設など）

# その他

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

- ・文化財修理事業の拡充
- ・鎌倉歴史文化交流館の館名の再検討（10周年にむけて）
- ・鎌倉歴史文化交流館・鎌倉国宝館・鎌倉市中央図書館・文化財課の  
収蔵資料の、適切な管理を目的とする収蔵区分の体系化
- ・鎌倉市中央図書館との連携強化（将来的な現庁舎の利活用を見据えて）

# (仮称) 鎌倉ミュージアム構想の推進

---

## 市域全体を博物館とみわたる博物館の目的

- ・子どもたちの「新たな学びの場」の創出
- ・デジタル化の推進



鎌倉歴史文化博物館

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE

**KAMAKURA**

デジタルミュージアム

# KAMAKURA MUSEUM

(仮称) 鎌倉ミュージアム 構想

**KAMAKURA**

フィールドミュージアム

鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM



# 国宝館と交流館の役割

鎌倉歴史文化交流館  
KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



- ①子供から大人までが、鎌倉の歴史や文化を容易に学べる
- ②鎌倉の通史及び埋蔵文化財を展示する



鎌倉国宝館  
KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

- ①中世を中心とした歴史・美術系博物館
- ②市内等の社寺から重要な文化財を預かり、保管・展示する。



## 鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

- 保存管理機能の強化
- 資料収集の強化
- 調査研究体制の強化

+ デジタルミュージアムの拠点

## 鎌倉歴史文化博物館

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



- ・ 保存管理機能の強化
- ・ 子供の学びの場としての強化
- ・ ワークショップ等学習支援の強化



フィールドミュージアムの拠点

# デジタルミュージアム

## ①収蔵品と資料のアーカイブ化

- ・収蔵品（寄託品・館蔵品）のアーカイブ化
- ・国宝館の館史資料のアーカイブ化

## ②収蔵品と資料のデータベース公開

- ・ホームページ公開
- ・文化遺産オンラインやジャパンサーチとの連携

## ③埋蔵文化財等のデータベース公開（文化財課）



鎌倉国宝館

KAMAKURA KOKUHOKAN  
MUSEUM

将来的にはフィールドミュージアムのデータベースもHP上で統合

## デジタル化の目的

6,000点を超える収蔵品の日常管理を容易に

将来に向けて引継ぎ可能な形へ

鎌倉の文化財の可視化

誰もがアクセスしやすいデータベースへ

# アーカイブ化の手順：収蔵品

## ①学芸員による調査



鎌倉国宝館収蔵品  
(寄託品・館蔵品)  
約6,000点  
埋蔵文化財等

アーカイブ化

## ②調書作成



## ③資料撮影



# アーカイブ化の手順：館史資料

①学芸員による  
基礎データ作成



アーカイブ化

②翻刻作業



③スキャニング



# データベース公開の方法



①民間企業の委託  
(有料DBの構築)



②官公庁DBに連携

 JAPAN SEARCH

文化遺産オンライン

Cultural  
Heritage  
online

# フィールドミュージアムの拠点：交流館

## 鎌倉歴史文化交流館

KAMAKURA MUSEUM OF  
HISTORY AND CULTURE



- 周遊の拠点／出発点としての強化 フィールドワークの拠点
- フィールドを活用した子供の学びの場の創出 博学連携
- 歴史・文化の学びに基づく鎌倉歩きの拠点整備
- 周遊を意識した交流館常設展の一部展示リニューアル
- データベースの蓄積 (EXやぐら、廃寺、調査地、旧地名)

地域域の人たちと掘り起こし

鎌倉地域全体を教育資源とした学校・博物館・フィールドの連携

## フィールドワークの目的

一定地域の網羅的な文化財現地調査（持続可能な保存へ）

作業的・体験的な学習活動の重視

目指せ「ブラタモリ」

目指せ 現代版『新編鎌倉志』

▶地域への愛着を育む

# 1 事前準備 学芸員

構成遺産カルテのフォーマット作成

石造物／地名／屋号／寺社／文書／建築など

基本地図の準備

構成遺産のリスト化

カルテへの基礎情報入力

# カルテのイメージ

## 萩市：おたからカルテ

## おたからカルテ（データシート）の書き方

### 通称・名称

地元で使われている名称（通称）を記入する。複数の名称がある場合、括弧書きするか、「概要」欄にメモする。地元では当たり前の読み方でも、他地域の人には読めないものもあるので、ふりがなも必ず記入すること。

### 写真

おたからの様子がわかる写真を撮る。写真ファイル名と名称は他の人が見てもわかるようにつけておく（5枚まで表示可能）。

### 由来

そのおたからが、こういった経緯でできたかを書く。  
「成り立ち」「なぜ」「いつから」例：建物…いつ・誰が・何のために建てたのか、等わかる範囲で書く。

### 情報源・参考文献

聞き取りの場合：〇〇氏よりヒアリング  
20XX年Y月Z日  
書籍の場合：編著者・『タイトル』・出版社・出版年 ページ番号  
その他備考・メモも記入する。

### 場所・所在地

「公式な住所」をできるだけ番地まで埋めていく。住所のないものは「〇〇の隣」などで場所が特定できれば、それでも良い。

### 地区名

番地などの「公的」ではなく、地元の人にわかる地名。字や昔から伝わる通称的なものを含む。

### 緯度・経度

まずは、地図上の位置を確認して、インターネットのマップで緯度・経度を調べて書く。

### 説明

概要や由来の内容を簡潔にまとめる（200字～250字以内を目安にする）。説明に書いてある内容は、概要や由来のいずれかに書かれてあるとよい。

### 概要・特色

大きさ、素材、様式など目で見えてわかることを書く（詳しい資料は別紙でコピーを添付）。

## 2 ワーキンググループ

ワーキンググループの立ち上げ

アクションプランの検討

博物館職員、教育委員会の先生、中央図書館、文化財課  
市内学校の先生、有識者、デザイナー、市内博物館の学芸員  
高校生・大学生（フィールドワークグループのリーダー）

### 3 フィールドワークグループ

#### フィールドワークグループ立ち上げ

- ・地域ごと

#### 現地調査の実施

- ・現地の写真撮影
- ・位置情報の追加
- ・聞き取り調査

# フィールドワークグループ

地域ごとにフィールドワークグループ（1地域ずつ立ち上げる）

## ▶最初にモデル地区の設定（EX扇ガ谷）

### ①フィールドワークの実施

高校・大学生リーダー／地域の有志者／学校連携でのフィールドワーク

### ②地域の小中学校もフィールドワークに参加

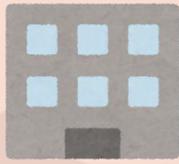
# ワーキンググループ



寺社



学校の先生

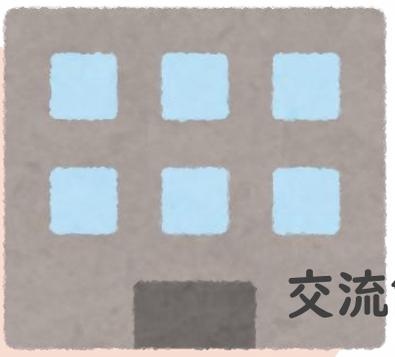


中央図書館



大学生 (鎌倉女子大)

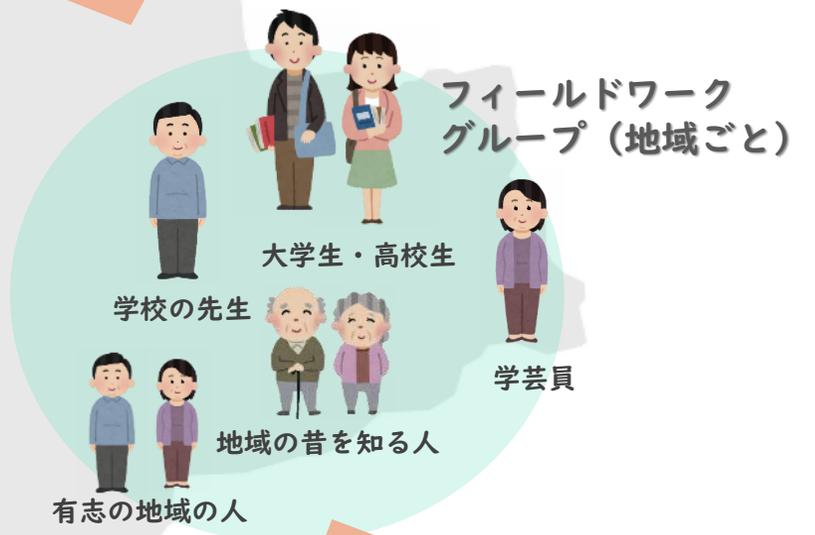
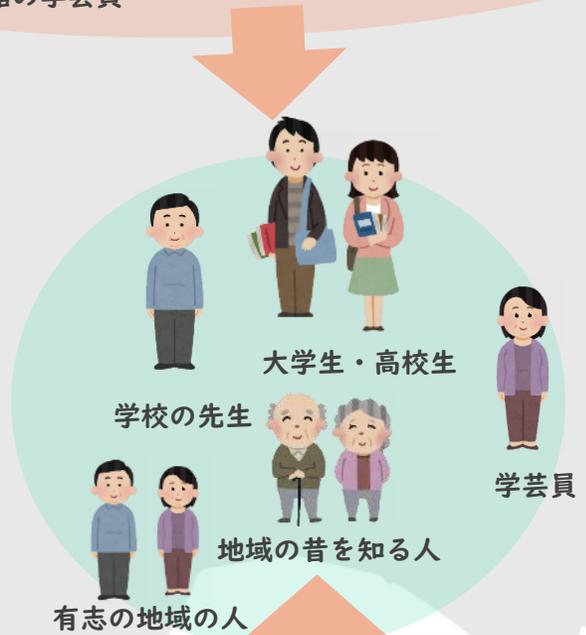
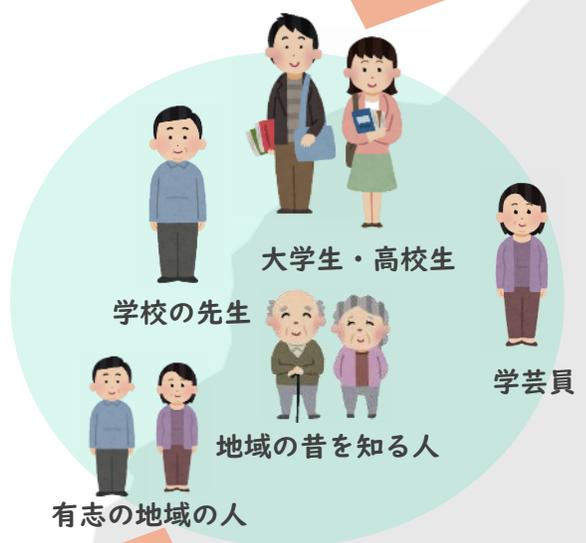
高校生 (鎌倉高校の鎌倉学、鎌倉学園、鎌倉女学院の歴史関連部活等)



交流館



市内博物館の学芸員



地域の小中学生

## 4 公開へ向けた作業

地図データへの落とし込み

→データベースの公開

モデルコースと解説文、配布マップの作製

→交流館で配布

溢れる観光マップではなく、学術的に質の高い、鎌倉で最も信頼できる内容を目指す

# 公開方法

事例：市原市

「i'Museum」

歴史遺産マップ

カテゴリ選択

全施設 | 遺跡:旧石器 | 遺跡:縄文 | 遺跡:弥生 | 遺跡:古墳 | 遺跡:奈良・平安 | 遺跡:中世 | 遺跡:近世 | 遺跡:近現代 | 建造物 | 彫刻 | 工芸品 | 歴史資料 | 天然記念物 | 考古資料 | 無形民俗 | 有形民俗 | 史跡 | 名勝 | 石造物 | その他 |

地図 航空写真

山木白船城跡  
住所：市原市山木  
関連リンク：詳細ページを開く

全施設

- 山木白船城跡
- 月崎寺の台遺跡
- 西広貝塚
- 祇園原貝塚
- 郡本遺跡群
- 姉崎妙経寺貝塚
- 姉崎山新遺跡
- 台遺跡
- 草刈六之台遺跡
- 草刈遺跡
- 武士遺跡
- 椎津堰谷遺跡
- 山見塚遺跡

# 公開方法

## 事例：萩のおたからデータベースHP



旧萩運船船蔵



住吉祭り 船船



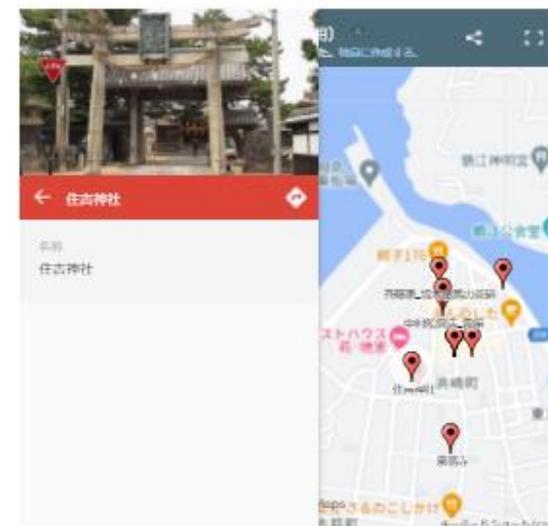
萩江の渡し

『萩の写真データベース』で他にも浜崎の写真をご覧ください。

浜崎は、萩の三角州の北東のはし、阿武川下流の松本川が日本海に注ぐ河口に開けた町です。海と川とを間近に控えた浜崎は、萩城下の港町として栄えました。主に回船業を営む人々、酒、味噌、醤油などの生活物資を扱う人々、魚市場を中心とした水産業に関わる人々が住んでおり、港の経済活動を支えるとともに、北前船も寄港し、にぎわっていました。また、藩の船をおさめる御船倉や浜崎半町に属する漁村や島々をおさめる代官所もありました。

海や船との関わりの中で栄えた町がみをつくる箱（しとみ）戸や虫籠（むしご）傘の町家、浜崎の町人たちが自ら結請した海上安全の守り神・住吉神社。船道具やはかり、引籠（ひきみだ）といった奇いの道具。家々に伝わる景々が浜崎のおたからです。

- ・ 浜崎の代表的なおたからとストーリーを紹介する観光マップをご利用いただけます。『浜崎おたからマップ』



## 5 成果の活用



横須賀市の事例 サテライトカード

データベースの公開

モデルコースと解説文、マップの配布

イベントの実施

- ・フィールドワークグループによるガイド等のイベント
- ・学校への出張授業

リスト及びマップに基づく定期的な現状確認

リスト及びマップの永続的な更新

修学旅行や郷土学習などの事前資料としての活用